令和4年(2022年)度　第8回資料小展示(R04. 10/29～11/29)

毛利敬親の伝記・履歴書

～明治前期の編さん～

◆13代長州藩主毛利敬親は、激動の幕末期を乗り越えたのち、明治4年(1871)3月28日、53才で亡くなりました。死の直前、「余命10年あれば朝廷に尽くすことができたのに残念だ」と語ったといいます。

◆敬親の伝記には、明治44年(1911)刊行の中原邦平「忠正公勤王事績」、明治末～昭和22年(1947)に毛利家の両公伝編纂所が編纂を続けた「両公伝」が有名です。

◆それらに先立ち、明治0年代～10年代にも、毛利家の編輯所員が中心となり敬親の伝記や履歴書が繰り返し作成されました。明治20年代には、個人により刊行された伝記もありました。

◆今月は、明治前期に編纂された敬親の伝記や履歴書を紹介します。

1. 敬親紀（３公統6）／明治6年5月

明治6年(1873)5月、毛利家が明治政府（正院歴史課）に提出した敬親の伝記です。政府が旧大名家へ「藩翰譜」（江戸時代編纂された大名家の系譜・由緒書）の補足訂正資料を提出するよう命じた際、わざわざ別冊資料として提出したものです。誕生～死去の間の主要な出来事が編年で記れています。史料引用はありません。最も早い時期の伝記です。

2. 毛利敬親事績（4忠正公127）／明治7～8年

明治7年(1874)2月、明治政府（歴史課）は、王政復古に功績があった敬親ら「功臣」の事績編纂のため、「編輯例則」を示し、生年月日、系譜、領地・禄高、叙位任官、履歴などをまとめ提出するよう命じました（復古功臣事績編輯事業）。明治7～8年に毛利家が提出した控が本書です。本編9冊、附尾4冊、計13冊。政府が求める以上の内容・量があり、典拠史料も大量収録されています。毛利家の意欲がわかります。

3. 忠正公実録（4忠正公129・130）／明治14年(1881)

明治14年(1881)9月に清書本全13冊が完成した敬親の伝記です。年月日順に誕生～死去までの出来事を綱文としてあげ、その典拠史料を示す形式です。13巻には「奉勅始末」「長防臣民合議書」などの重要史料や、エピソード集「忠正公遺事」を収録します。敬親の「勅撰銅碑」建設決定（明治12年4月）に伴い、参考資料として毛利家の編輯員が作成し、山口から東京毛利邸へと送られました。

4. 忠正公一代編年史(59忠正公一代編年史)／明治16年8月

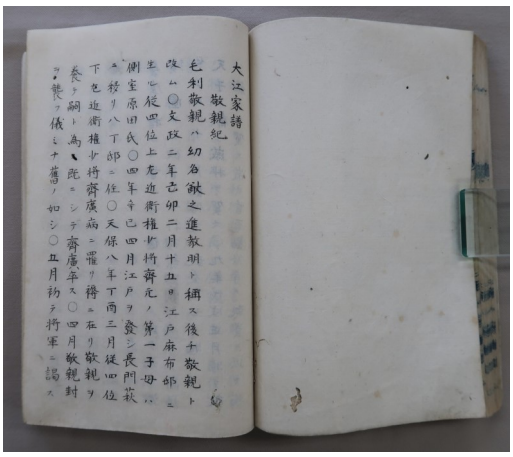
明治16年(1883)8月、毛利家編輯所員中村弼が未定稿ながらまとめた111冊からなる伝記です。年月日順に綱文を掲げる形式で、史料引用はほとんどありませんが、現在でも年表的に事績を調べる際には便利な内容です。「勅撰銅碑」作成との関連でまとめられたと考えられます。

5. 贈従一位毛利公年譜(4忠正公95)／明治15年8月

敬親の「勅撰銅碑」の碑文銘は、修史館（政府の歴史編纂業務担当部局）の一等編修官・川田剛が作成を担当しました。本書は、明治15年(1882)8月、川田が門人に命じ作成させた敬親の年譜です。碑文銘作成準備のためのものでしたが、毛利家に内容確認を依頼したところ、編輯員たちから猛烈な修正意見を加えられました。毛利家編輯員たちのプライドの高さがうかがわれます。

6. 忠正公略伝(江浪家45)／明治24年4月

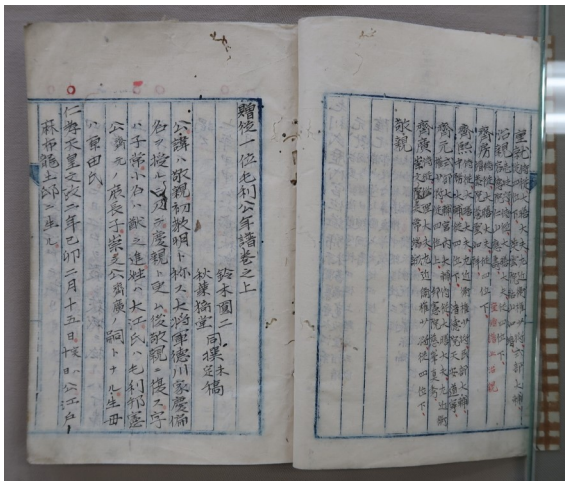
明治24年(1891)4月、『長周叢書』の一冊として出版された敬親の伝記です。村田清風の孫で、一時期毛利家の編輯所員を務めた経験をもつ村田峯次郎の編です。忠正公二十年祭典を記念して刊行されました。「明治初期に毛利家が朝廷に70万両を献金した」という史実とは異なる言説がはじめて記された伝記でもあります。



1． 敬親紀

2． 毛利敬親事績

3． 忠正公実録



5． 贈従一位毛利公年譜

4．忠正公一代編年史

6．忠正公略伝